大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

表紙、目次、表紙写真解説、編集後記、奥付、投稿規定、裏表紙

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017971

ISSN 1348-3293

都市文化研究

Studies in Urban Cultures

Mar. 2023

25

目　次

研究論文

“北上”策略下的王家卫电影　李　茗锐　1
—以《一代宗师》为例—
(「北上」戦略下での王家衛映画について —『グランド・マスター』を例として—)

House and Family: Outdoors in Toni Morrison's *The Bluest Eye*　Lingling Wang　11

1980 年代的山东农村科教电影放映　赵　晟　23
—以全国首届农林科教电影汇映月为例—

曹禺『雷雨』周樸園の形象について　瀬戸　宏　32

役割語としての＜関西弁＞とドイツ語翻訳についての一考察　信國　萌　41
—『名探偵コナン』を例として—

研究ノート

大阪市立大学におけるアカデミック・ライティング教育の課題と成果　石川　優　52
—「文学部基礎演習」と「基礎文章力向上セミナー」の事例をとおして—　大山　大樹　佐伯(片倉)綾那　渡辺　拓也

日本におけるレプティリアン陰謀論受容とその役割　齊藤　竹善　66
—太田竜から神真都 Q まで—

戦国大名後北条氏における検地実施過程と年貢収取　石田　将大　78
—伊豆国西浦の事例をもとに—

研究展望

「ジャーナリスト作家」ジャン・ロランの美術批評　辻　昌子　92
——受容者の視点から——

書　評

三浦慎悟著『動物と人間 —関係史の生物学—』　加藤はるか　98

ニュース　100

【表紙写真解説】

表紙の写真は，2015年１月に中華人民共和国香港特別行政区の旺角（Mong Kok）にあるホテルから撮影したものである。ホテルといっても，実際に泊まった部屋は集合住宅のような古いマンションの中にある。

旺角は香港の九龍半島中部の油尖旺区に位置し，人口が多く住宅密度も高い地域だ。ホテルは賑やかな花園街（Fa Yuen Street）と通菜街（Tung Choi Street）の間にある。道は狭く，古いマンションが立ち並んでいるが，青果店や飲食店，衣料品店のほか，安い商品を販売するさまざまな屋台もあり，生活の雰囲気がたっぷり感じられる場所である。ホテルの西側（彌敦道）と東側（旺角東）にも，非常に賑わった通りがあるが，雰囲気が違う。デパートやラグジュアリーホテルが並んでいて，若者にとって人気のショッピングエリアとなっている。このように，モダンな摩天楼と古い住宅街，ショッピングセンターと屋台が旺角には同時に存在している。

1988年に王家衛（ウォン・カーウァイ）が監督した『いますぐ抱きしめたい』（原題：『旺角卡門』）が香港で大ヒットしたのをきっかけに，映画撮影地として旺角は大人気になった。

文：李　茗锐

編集後記

『都市文化研究』第25号をお届けします。本号では、「研究論文」5篇,「研究ノート」3篇,「研究展望」1篇,「書評」1篇を掲載しました。そのうち2篇が中国語であり，英語の論考も1篇ありました。コロナ禍の続く中、2022年4月には大阪公立大学が発足しましたが，昨年度までと変わらず多くの投稿があり，学内外の教員による厳正な査読を経て掲載が決定いたしました。執筆者の方々，査読をご担当いただいた先生方には，心より御礼申し上げます。本号でも，学際的な本誌にふさわしく，幅広い領域から,特に若手の研究者の方の挑戦的な研究成果が多く集まりました。なお，今回の表紙写真は，本号巻頭の論文を掲載された李茗锐氏にご提供いただきました。中華人民共和国香港特別行政区の住宅街で，都市生活の光景を捉えた一葉です。李氏にはこの場を借りて御礼申し上げます。

（宋恵媛・編集委員長／山本真由子・第25号編集主任）

『都市文化研究』第25号　2023年３月３日 発行

大阪市立大阪大学院文学研究科都市文化研究センター
〒558-5858　大阪市住吉区杉本3-3-138　電話＆FAX　06(6605)3114
gr-lit-ucrc@omu.ac.jp
http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/

編集　『都市文化研究』編集委員会

編集委員
宋　　恵媛・編集委員長（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・アジア文化学）
山本真由子・第25号編集主任（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・国語国文学）
古賀　哲男（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・英語英米文学）
笹島　秀晃（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・社会学）
辻　　香代（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・言語応用学）
沼田　里衣（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・文化資源学）
橋本　博文（大阪公立大学大学院文学研究科准教授・心理学）
平田　茂樹（大阪公立大学大学院文学研究科教授・世界史学）

編集補佐
庄　　涵淇、高野　保男

表紙デザイン　有限会社インビジブル

印刷　博進印刷株式会社
〒559-0002　大阪市住之江区浜口東2-7-24

投稿規定（2022年7月8日改訂）

1．執筆資格者は，原則として大阪公立大学都市文化研究センター研究員，同大学大学院文学研究科の専任教員，名誉教授，特任教員ならびに非常勤講師とする。共著の場合は，筆頭執筆者が上記執筆資格者であること。なお，指導教員の推薦を受けた文学研究科大学院生の単独執筆を受け付けることがある。また，上記執筆資格者以外の執筆は，都市文化研究センターでの研究活動，研究プロジェクトに関わる成果としての投稿に対して，別途認めることがある。
※同一著者による同号，同ジャンルへの筆頭著者としての複数の投稿は原則として認めない。
2．投稿原稿は，学術に関する未公開の研究論文，研究ノート，研究資料，企画（シンポジウム，特集等），特別寄稿，翻訳，研究展望，書評，学会レポート，海外レポートとする。なお，企画原稿については，あらかじめ編集委員会に内容・体裁・分量を相談すること。
3．執筆希望者は，名前（フリガナ）・所属・投稿ジャンル・執筆言語・タイトル・指導教員あるいは受入教員を，別途定める期日までに『都市文化研究』編集委員会（大阪公立大学杉本キャンパス文学部棟２Ｆ都市文化研究センター事務局内）に連絡し，執筆を申し込む（エントリー）。大学院生が単独執筆を希望する場合は，指導教員と相談の上で申し込む。
4．原稿（本文・註）は日本語・英語・中国語のいずれかとする。これ以外の言語で執筆を希望する場合は，エントリー時に編集委員会に相談すること。
5．原稿の分量は以下の通りとする。外国語原稿の場合も和文に相当する分量とする。
⑴研究論文・研究ノート・研究資料・特別寄稿：
400字換算で60枚以内（本文・註・図表等を含めて，本誌の体裁で15頁以内）。
※語・文字数よりは総頁数を尊重する。
※和文2万4000字に対して，英語9000語，中国語2万字の割合を目安とする。
※ただし，上記の目安分量を外れた場合でも，編集委員会の判断によって受理する。
①日本語の場合は，和文タイトル・英文タイトル，和文要旨・英文要旨，和文キーワード（5語）・英文キーワード（5語）をつける。和文要旨は600～800字程度，英文要旨は300～400語程度とする。
②英語の場合は，英文タイトル・和文タイトル，英文要旨・和文要旨，英文キーワード（5語）・和文キーワード（5語）をつける。英文要旨は300～400語程度，和文要旨は600～800字程度とする。
③中国語の場合は，中文タイトル・英文タイトル・和文タイトル，中文要旨・和文要旨，中文キーワード（５語）・和文キーワード（５語）をつける。中文要旨は300～400字程度，和文要旨は600～800字程度とする。
⑵研究展望：400字換算で30枚以内（本文・註・図表等をふくめて，本誌の体裁で６頁以内）。
⑶書評・学会レポート・海外レポート：400字換算で10枚以内（本文・註・図表等をふくめて，本誌の体裁で３頁以内）。
⑷翻訳：400字換算で60枚以内（本文・註・図表等を含めて，11～15頁）。これを超過しそうな場合は，編集委員会と事前に相談すること。本文とは別に，和文解題（600～800字）を添付すること。
⑸企画：内容・体裁とともに，編集委員会と事前に相談すること。
6．執筆者は，ウェブサイトに掲載されている「執筆要項」にしたがって完成原稿を作成し，別途定める締切日までに『都市文化研究』編集委員会に提出する。大学院生の単独執筆の場合，指導教員の推薦状を添えなければならない。なお，UCRC研究員および大学院生の単独執筆の場合は受入教員・指導教員による点検，第一言語以外による執筆原稿についてはネイティヴチェックや文学研究科提供のプルーフリーディング等，第三者の校閲を原稿提出前に受けることを推奨する。いずれも査読の対象となる。
7．投稿された原稿については，編集委員および編集委員から付託をうけた者が査読をおこなう。その結果，書き直しを求めること，不採用となることがある。
8．校正段階で大幅に加筆，修正することは認めない。誤字訂正，印刷上のミスの訂正にとどめる。
9．掲載された論文等は，原則として電子化し，都市文化研究センターウェブサイトおよび大阪公立大学学術機関リポジトリを通じて公開する。ただし，電子化・公開を希望しない理由がある場合は，当該論文等の電子化・公開をしないこともできる。
10．研究論文・研究ノート・研究資料・特別寄稿・研究展望および翻訳の執筆者には，本誌２冊と抜刷30部を進呈する。

■次号（26号）原稿募集■
エントリー：2023年６月30日（金）予定
応募先：gr-lit-ucrc@omu.ac.jp
原稿締め切り：2023年８月末～９月

Original Articles

Mingrui LI 1-10
Wong Kar-wai's films under the strategy of "CEPA" : Taking The Grandmaster as an example

Lingling WANG 11-22
House and Family: Outdoors in Toni Morrison's The Bluest Eye

Sheng ZHAO 23-31
Film Screening of Science and Education in Rural Shandong in 1980s:
Take the first national agricultural, forestry, science and education film Huiying Moon as an example

Hiroshi SETO 32-40
The image of ZHOU Puyuan in CAO Yu's Thunderstorm

Moe NOBUKUNI 41-51
<Kansai Dialect> as a Role Language and its German Translation: Examples in Detective Conan

Research Notes

Yu ISHIKAWA, Daiki OYAMA, Ayana SAEKI-KATAKURA, Takuya WATANABE 52-65
Issues and Outcomes of Academic Writing Education at Osaka City University:
A Case Study of "Basic Seminar for Students at the Faculty of Literature and Human Sciences" and "Seminar for Basic Academic Writing"

Chikuzen SAITO 66-77
The Acceptance of Reptilian Conspiracy Theories in Japan and Their Role:
From Ryu Ota to Yamato Q

Masahiro ISHIDA 78-91
A Reexamination of the Process of Conducting Land Surveys and the Collection of Annual Tribute by the Sengoku Daimyo of the Go-Hojo Clan: Based on the Nishiura in Izu Province

Research Trends

Masako TSUJI 92-97
The Art Criticism of Jean Lorrain as a "Writer-journalist": from the perspective of a viewer

Book Review

Haruka KATO 98-99

News 100-108
Editorial 109
Notice to Contributors 110

UCRC
Urban-Culture Research Center
大阪公立大学大学院文学研究科
都市文化研究センター